

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第3区分
【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2000-509422(P2000-509422A)
【公表日】平成12年7月25日(2000.7.25)
【出願番号】特願平9-539482
【国際特許分類第7版】
C 0 8 J 3/12
【F I】
C 0 8 J 3/12 Z

【手続補正書】
【提出日】平成16年4月5日(2004.4.5)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成 16 年 4 月 5 日

特 許 庁 長 官 殿

1. 事件の表示

平成 9 年 特 許 願 第 539482号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ビーエーエスエフ アクチェンゲゼルシャフト



3. 代 理 人

住 所 東京都港区西新橋2丁目7番4号

ドクトル・ゾンデルホフ法律事務所

電話 03(3503)3303 (代表)

氏 名 (6181) 弁理士 矢 野 敏 雄



4. 補正により増加する請求項の数 0

5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

請求の範囲

7. 補正の内容

別紙の通り



請 求 の 範 囲

1. 遊離酸性基を有するかまたは塩基性基を有するコポリマーおよび場合によれば助剤を含む水溶液中に再分散できるポリマー粉末の製造方法において、分散液のpH値を、少なくとも1種の緩衝系の添加により、酸性基を有するコポリマーの場合にはpH 2.0～6.5、または塩基性基を有するコポリマーの場合にはpH 7.5～12に乾燥の前に調整することを特徴とする水溶液中に再分散できるポリマー粉末の製造方法。
2. 分散液のpH値を、少なくとも1種の緩衝系の添加により、酸性基を有するコポリマーの場合にはpH 3.0～6.0、または塩基性基を有するコポリマーの場合にはpH 7.5～11に調整する、請求項1記載の方法。
3. 緩衝系として、弱酸および強塩基から成る塩または強酸および弱塩基から成る塩を用いる、請求項1または2記載の方法。
4. 緩衝系として、中和剤を、遊離の酸を有するかまたは塩基を有するポリマーに加えて得られるポリマー緩衝液を使用する、請求項1または2記載の方法。
5. ポリマー粉末として、遊離のカルボキシル基を有するかまたはアミノ基を有するコポリマーを使用する、請求項1から4までのいずれか1項に記載の方法。
6. ポリマー粉末として、アクリル酸および／またはメタクリル酸のアルキルエステル20～85重量%および塩形成できるラジカル重合可能なモノマー80～15重量%を有するコポリマーを使用する、請求項1から5までのいずれか1項に記載の方法。
7. 請求項1から6までのいずれか1項に記載の方法により得られる水溶液中に再分散できるポリマー粉末。
8. 請求項7記載の水溶液中に再分散できるポリマー粉末の化粧品または医薬品調剤または植物保護剤のための調剤への使用。
9. 遊離したカルボキシル基を有するかまたはアミノ基を有するコポリマーを含む乾燥ポリマー粉末の緩衝液添加を伴わない再分散への請求項3または4記

載の緩衝系の使用。

10. 請求項7記載の水溶液中に再分散できるポリマー粉末および通常の添加剤を含む化粧品または医薬品調剤または植物保護剤のための調剤。